



異国の地で学び、考える。

青少年海外研修事業

白糠町では平成9年より「ふるさと教育」に取り組み、町の歴史や産業、アイヌ文化などを学習しています。令和7年度は10月24日～30日の7日間の日程で、町内各学校の中高生がインドネシアを訪問し、交流事業・視察研修を行いました。

令和7年度

青少年海外研修事業

国際的な視野を持ち、地域や社会の課題を主体的に考え行動できる人材の育成を目的に、令和7年度青少年海外研修事業を実施しました。

本年度は、町内の中学生・高校生8人が参加し、インドネシア共和国バリ島を訪問。環境問題、少数民族文化、国際交流を主なテーマに、7日間にわたる研修を行いました。

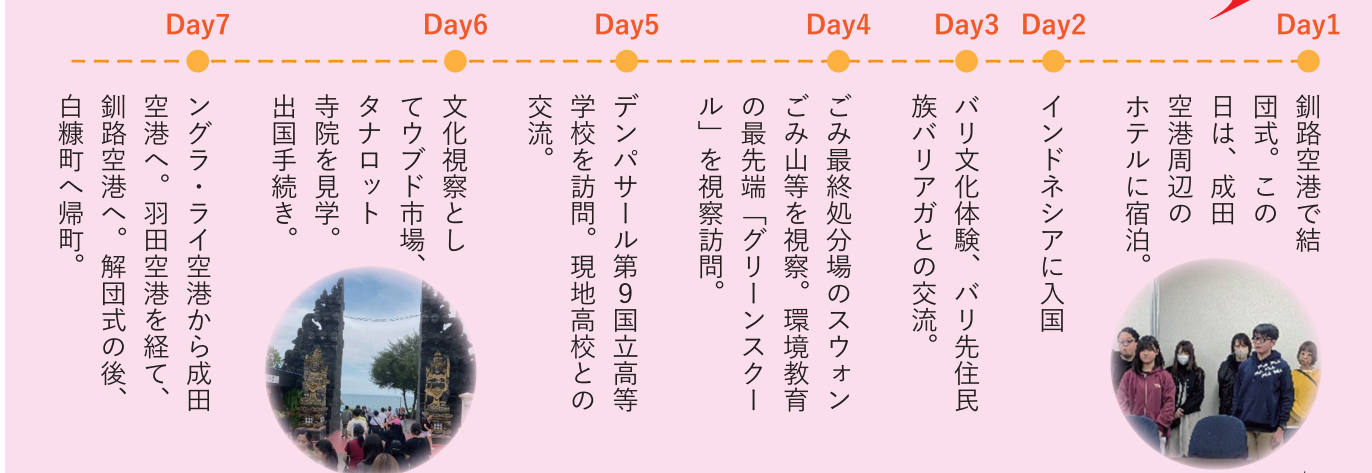
研修は釧路空港での結団式から始まりました。初めての長距離移動や国際線搭乗に戸惑いながらも、互いに声を掛け合い、研修に臨む姿勢が見られました。

インドネシア入国後は、気候や街の雰囲気、交通事情など、日本との違いを肌で感じ、「本当に海外に来たのだ」と実感する場面も多くありました。

◆文化・少数民族を学ぶ

研修3日目は、バリ島の文化体験施設で民族衣装体験や伝統的なお供え物「チャナン」作りを行い、宗教や生活文化が日常に根付いて

スケジュール
schedule



いる様子を学びました。
午後には、独自の慣習と伝統を守り続ける先住民族「バリアガ」が暮らすトゥガナン村を訪問。近代化が進むバリ島において、文化を継承し続ける人々の暮らしに触れ、生徒たちは「文化を守ることの意味」について考える貴重な機会となりました。

◆現実と向き合い、視野を広げる

研修4日目は、もう一つの重要なテーマである「環境問題」に正面から向き合いました。

訪問したスウォン地区のゴミ山では、想像を超える量の廃棄物が集積され、その中で生活し、働く人々の姿がありました。強い臭気や厳しい環境の中で働く現実を目の当たりにし、生徒たちは言葉を失いながらも、真剣な表情で説明に耳を傾けていました。

この体験は、環境問題を知識ではなく現実として捉える大きなきっかけとなりました。

一方、午後に訪問した「グリーンスクール」では、竹を中心とした校舎や堆肥化システムなど、自然と共生する先進的な教育環境に触れました。

環境問題の深刻な現実と、それに対する理想的な取り組みの両方を体験することで、生徒たちは課題を多角的に考える視点を身につけていきました。

◆国際交流で広がる世界

研修5日目には、デンパサール第9国立高等学校を訪問し、現地の生徒たちとの交流を行いました。

歓迎セレモニーでは、合唱や伝統舞踊が披露され、温かい歓迎を受けました。白糠町から参加した生徒たちも、町の紹介やアイヌ文化の踊りを披露し、言葉や文化の違いを超えた交流が生まれました。グループ交流では、片言の英語やジェスチャーを使いながら、学校生活や文化、環境問題について意見を交わしました。

◆研修を経て

この研修を通して、生徒たちは異なる文化や価値観に触れ、自身自身の考え方を見つめ直すとともに、世界の課題を自分のこととして捉える意識を高めました。

研修で得た学びは、今後の学校生活や地域活動、そして将来へとつながっていくことでしょう。



①バリブダヤ・バリ文化体験



②トゥガナン村でのバリアガとの交流



③スウォン地区のごみ山での研修



④グリーンスクールの視察



⑤デンパサール第9国立高等学校での交流